

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501429), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (グループホームまいホーム川北二番館 2階), 所在地 (北海道札幌市白石区川北1条3丁目7-18), 自己評価作成日 (平成30年1月), 評価結果市町村受理日 (平成30年3月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様も年数が経つ毎に認知機能、体力の低下がみられていますが、その中でもそれぞれの出来る事に着目し役割りをみつけ行なって頂いています。出来る方は料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳の一連の作業を行なって頂いたり、裁縫の得意な方は雑巾縫いやズボンのすそ上げなど、入居前も生活の中で普通に行なっていた事をやっていただき、それぞれの能力を発揮できる場を大切にしています。ユニット内の壁の装飾など、入居者様と一緒に作り上げ季節感を感じられるよう毎回趣向をこらしてあり、生活の中での楽しみ事になっています。恒例の秋の漬物作りでは、野菜を洗ったり切ったりの作業を職員と共にし、昔ながらの手作りの漬物の味は入居者さん皆さんが楽しみにされています。それぞれ毎日体調や気分に変化がありますが、少しでも生き生きと楽しんで暮らせるお手伝いが出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 rows: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0190501429-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年2月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパー・コンビニ・ドラッグストア・飲食店・病院等に近く、生活環境に恵まれている事業所である。リビングの大きな窓からは、百年記念塔や野幌森林公園等の、四季折々の景観が望め、季節の移り変わりを身近に感じる事ができる。管理者及び職員は、個々の利用者の得意な事や趣味を活かしバレーボールセンターで打球の練習や、クロスワードパズルに挑戦している利用者の支援をしており、過剰な介護にならないように、危険のない範囲で個々の利用者が出来る、調理・片付け・裁縫・花壇の手入れ等の能力を発揮できる場を提供している。正月・節分・ひな祭り・母の日・クリスマス等、昔馴染みの行事を大切に、食欲が出る様に見た目にも美しい行事食を提供し好評である。また、秋には利用者と共に数種類の漬物を仕込み、1年中手作りの味を楽しんでいる。北都白石連合会主催の防災訓練や、町内の防災訓練に参加し、消火器の使い方を学び、いつ起こるか分からない自然災害に備えている。近隣住民との交流も盛んで、夏祭り等の町内会行事の参加や、事業所の防災訓練には地域住民が参加しており、地域に根ざした家庭的で温かい地域密着型事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員共に運営理念の意味を理解し実践していくよう意識した関わりを持つよう努めている。	運営理念と運営規定は事業所内の随所に掲示し、運営推進会議では必ず理念を説明している。全職員は、理念の意義を理解してケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し夏祭りなどの地域の行事には積極的に参加している。近隣に買い物や散歩に出際には日常的に挨拶をかわし地域に馴染むよう暮らしている。	白石区ふるさと祭りや、防災訓練に参加している。事業所の夏祭りや避難訓練には、地域の人達が参加し、散歩や買い物時には挨拶を交わし日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践のあり方を運営推進会議などで発信していく機会を持ち、認知症に対する理解を深めていくことに繋げられるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に開催しており、事業所の取り組みについて参加者に報告している。特に防災面では町内と協力体制を築けるよう取り組みについて情報交換をしている。	運営推進会議には、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員等の参加のもと定期的に開催され、事業所の取り組み・行事報告・災害時対応について協議し、事業所の運営に活かしている。	一人でも多くの家族の参加が得られる工夫として、開催曜日や時間を検討し、家族が興味を持つ議題を選び、防災訓練と同日開催する等、今後の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は管理者会議などを通じて情報交換や意見交換などを行なっている。地域包括支援センター、役所の担当者とも連携をとり、関係性を繋いでいる。	ケアサービスの疑問や質問は、行政窓口を訪問して直接相談し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。管理者連絡会議などに参加して情報を共有し、行政方針の理解に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の倫理規定があり全職員が理解している。防犯面の観点から1階玄関は時間を決め施錠し、事業所周辺の交通量が多い為、1階玄関はオートロックとなっているが、危険のない限り希望時はいつでも出られるよう対応している。	禁止とされる具体的な身体拘束11項目は、事務室に掲示して常に確認をしている。公的機関の苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様に対するケアの方法や声かけのしかたについて無意識の虐待がないか意識して関わりを持つよう努めている。申し送りやカンファレンスで職員同士気づきを話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解し、必要性のある方に対しては利用するかの検討をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には必ず重要事項の説明を行ない、理解した上での契約となっている。入居に際しての疑問や不安について事前に伺い、納得できるよう説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時など、利用者の様子を伝えると共に要望など伺うよう努めている。外部の相談窓口については1階共用玄関に提示している。	家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見や要望を聞き、運営に反映するよう努力しており、電話連絡時にも希望要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の意見、提案などは管理者へ伝えている。管理者から代表者へ繋げ、随時検討し可能な限り運営に反映するよう努めている。	会議や個別の相談の機会など、職員の業務に対する意見等が出やすくしている。また、働く環境整備として職員のメンタルケアやストレスケアの場面などからも要望を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況については管理者が把握し代表者へ報告がなされている。働きやすい環境整備に努めており、職員不足に関しても少しずつではあるが改善に向かいつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については希望があれば受ける機会を提供しているが、職員のスキル向上の為に参加しやすい体制を整えていく必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者会議などでの繋がりがあがるが職員については少ない研修で外部との交流や意見交換の場になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談の際に本人や家族の不安な事、要望等の聞き取りを行い、出来る限り不安要素を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては入居前の本人の状態や要望などを伺い、不安や心配を軽減できるよう説明を行なっている。話しやすい関係性を持つよう対応に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望や状況をふまえ必要とするサービスがホームで対応か検討し、説明をしたうえでサービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴れ合いの関係にならないよう人生の先輩として常に尊敬の気持ちを忘れないよう接している。生活を共にする中で、それぞれ役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や受診など家族の協力を得ながらサービスを行なっている。出来るだけ面会に来て頂きたいものの、ご家族も忙しく遠方だったり頻度としては少ない状況である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、知人との面会、電話や手紙のやりとり等、関係性が継続できるよう支援している。	通院の帰りにレストランで食事をする等、これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援している。家族や友人の来訪時にはゆっくり話ができる場を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や関係性を把握し、座る場所に配慮したり介入している。状況を観察しトラブルを未然に防ぐよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や家族が困ることのないよう移転先の病院や施設との連絡調整や情報提供を行ない、安心して次の生活に移行できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉の中から意向や思いを把握し、記録や申し送りで情報を共有している。カンファレンスで検討し出来る限り意向に添えるようケアプランに反映させている。	個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握するよう努めている。困難な場合は家族や関係者に相談し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書の他に家族や関係者から本人のこれまでの経過を伺い、それを基にサービスに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの様子や体調について小まめに記録し、現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者ごとに担当者を決め、現状に必要なケア、見直しが必要なものについてカンファレンスの場で検討し評価をおこないケアプランを作成している。	定期的な見直しは、一人ひとりの状態に合わせて3か月から6ヶ月毎に行い、身体の変化や利用者や家族の要望を取り入れ、随時見直しを行っている。医療機関等との連携の下、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や対応したケア内容、気づき等はケース記録に記録し、朝、夕の申し送りやカンファレンスで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズの変化には支援に必要であれば話しあい、可能な限り柔軟に対応できるよう取り組みをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源について、広い範囲で把握し本人の暮らしの中で活用し豊かな暮らしに繋げていけるよう取り組んでいく必要がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人のトロイカ病院がかかりつけ病院となっており定期的に受診している。急病時なども相談できる体制ができています。他に希望する専門医があれば都度受診している。	事業所の協力病院には定期的に通院し、健康管理を行なっている。運営母体が医療法人で、ホーム長が看護師であることから、緊急時にはすぐに対応できる体制ができており、利用者や家族にとって安心度が高い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師で、医療的な連絡相談や指示を仰いでいる。週に1~2回同一法人からの訪問看護も受け、医療面での支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合は入院先の医療機関へ情報を提供し、本人の状況を伝達している。同一法人の病院とは日頃から連携をとり関係、調整に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について入居契約の際に本人、家族の意向を確認しホームの方針についても説明をしている。看取りは行っていないが、安心して医療に移行できるよう対応している。	重度化した場合や終末期のあり方については、事業所ができる事を説明し最大限の支援しており、希望する医療機関に移行できるように配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるよう救命救急講習会や消防訓練に参加している。いざという時にとっさの判断が出来るようトレーニングをしていく必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練は入居者、職員、地域住民にも参加していただいている。毎回避難経路の確認を行い消火器の使い方も学んでいる。避難訓練時に地震水害について話し合っている。	年2回、消防署の協力のもと利用者と地域住民と共に避難訓練を行い、緊急連絡網も整備されている。避難経路の確認や、実際に消火器を使用した訓練も行われている。	停電時や厳寒期の寒さ対策として、灯油ポータブルストーブの備蓄を法人本部と検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を重視し丁寧な言葉かけをするよう常に心掛け、プライバシーの確保には細心の注意をはらっている。	利用者の尊厳を重視して、言葉かけなどに細心の注意を払い対応している。個人情報に関する書類は、事務室で適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを表現しやすいよう話題をふり、会話の中から思いや希望を汲みとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望やペースを優先し過ぎていただいている。食事の時間など決まった時間にとれなくても居室に運ぶ等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはそれぞれが好みの物を選び着用されている。訪問理美容を利用しヘアカラーやカット等利用されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や季節毎の行事食、誕生会での祝い膳など食事が楽しみとなるよう工夫している。出来る方には食事の準備、後片付けもして頂き、やりがいとなっている。	誕生日や行事には、利用者の嗜好に合わせて、工夫を凝らした食事を提供しており、毎日のおやつも手作りが多い。毎年秋には利用者と共に漬物を作り、懐かしい味は好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量、嚥下状態等は毎回記録し把握している。嚥下状態に不安がある方は一口大やトロミで対応する等、安全安心に食事がとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを声掛けや見守りにて行い、就寝前には義歯洗浄剤を使い清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握している。リハビリパンツや夜間ポータブルトイレを使用している方もいるが、日中はどなたもトイレでの自立した排泄ができています。	排泄が自立している利用者が多い。一人ひとりの排泄パターンを把握し、安心・安全に配慮しながらトイレでの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い水分やバランスのとれた食事、適度な運動で便秘にならないよう心掛けている。必要時は医師の指示のもと下剤を服用している方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間の入浴予定はあるがその日の体調や希望により柔軟に対応している。時間などなるべく個々の希望に添えるよう支援している。	入浴は週に2回としているが、利用者の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。必要に応じシャワー浴や清拭にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の消灯時間は決まっていない。個々のリズムにあわせ日中の休息なども自由にして頂いているが、夜間安眠の妨げにならないよう時間をみて声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書にて薬の内容について把握している。毎回チェック板を用い服薬ミスには細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除に始まり、台所や洗濯干しなどそれぞれの能力に合わせて入居者全員が何かしらの役割を持ち過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は近隣の公園や近くのスーパー、コンビニなど戸外へ出かける機会を頻繁にもっている。年に1~2回は外出レクを企画し昨年は羊ヶ丘展望台へ出かけ皆さん喜ばれていた。	天候を見ながら、買い物・散策・花壇の手入れなどで戸外に出掛け、行事としての外出や外食の機会がある。運営母体である医療法人のデイケアに通っている利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は基本管理室で預かっているが、家族の了解のもとで少額は自室に所持している方もいる。必要な物や希望の物は家族と相談し購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、年賀状のやり取りは自由にしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は常に清潔で気持ちの良い空間であるよう環境整備に気を配っている。春から秋にかけては職員が自宅の庭の花を差し入れてくれたり花壇で摘んできた花を飾り季節毎の彩りを添えている。	リビングの窓からは、野幌森林公園や百年記念塔等の四季折々に変化する美しい景色を見渡すことができる。共用部分には、利用者作成の季節のはり絵や行事写真が飾られ、家庭的な空間となっており、清掃も行き届き整理整頓され清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではそれぞれが好きな場所で思い思いに過ごしているが、相性をみて状況によっては気楽に過ごせる場所を確保するなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは本人の馴染みの家具や装飾品、仏壇を持っている方もいて、それぞれが「自分の部屋」という感覚で居心地のよい空間となっている。	居室はクローゼットやナースコールが設置されている。思い出のある家具・日用品・家族写真が持ち込まれ、家族とともに危険箇所がないか点検を行い、安全に居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーのつくりで各所に手すりも設置されている。過剰な介護にならないよう危険のない範囲でご自身で出来る事は行なってもらっている。		